

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第43回

感動をつくるフラワー・シャンドリア —環境共生づくりの例は『花非花』

一般社団法人 光楓座
一般社団法人 e f c o . j p
代表理事 佐藤建吉

▼三島に現地調査

「花がまるでシャンドリア」のよう、しかも花が一年じゅう咲いている。そんなところがあるのだろっか。それを確かめるために、静岡県三島市の「三島スカイウォーク」に、埼玉県春日部市から6名で朝6時に向かった。現地では、さらに案内のM氏と合流した。沖繩からの2名とその関係者2名が加わり、総勢13名の見学となった。

▼三島スカイウォーク

「三島スカイウォーク」は、御殿場や箱根の南側にある。この施設の目玉は、長さ400mある日本一の吊り橋である。民間企業が長大な吊り橋を造ることは前例がなく障害や難題があり、構想から10年後に実現したという。その甲斐あって、「三島スカイウォーク」は、2017年度のグッドデザイン賞を、ビジネスモデルと土木構造物の2部門で受賞した。



2017年度グッドデザイン賞を受賞した三島スカイウォーク

現地でのご案内と解説をしてくださったのは、「三島スカイウォーク」でのフラワー・シャンドリアを「スカイガーデン」としての施設設計、管理をしている松浦孝裕氏。掛川からわざわざ来られたという。

伊豆縦貫自動車道が建設されると、三島市は通過するだけになり、観光客が来なくなる。パチンコ店などを経営する会社の社長は山歩きが好きで、その地を歩いたとき、草土山と駿河湾一望できる観光スポットに、吊り橋を思いついたという。

民間企業が長大な吊り橋を造ることは前例がなく障害や難題があり、構想から10年後に実現したという。その甲斐あって、「三島スカイウォーク」は、2017年度のグッドデザイン賞を、ビジネスモデルと土木構造物の2部門で受賞した。

フラワー・シャンドリアの仕掛け人、松浦孝裕氏

▼フラワー・シャンドリア

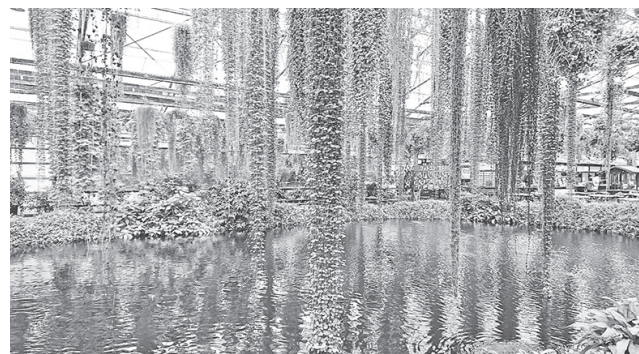
館内に入ると、なるほど花がシャンドリアのように吊り下がっている。驚異と感動が生まれる瞬間である。近づいて、見上げる者、手を伸ばして触れる者、香りを嗅ぐ者と様々であるが、初めて見る者にとっては驚きを禁じ得ない。

クルマ付きのリフトに乗って作業している男性がいた。



この花への水やりは肥料は？温度は？湿度管理は？日射は？花の種類は？どこでこの花は一年じゅう咲いているの？コストは？立て続けに、質問をしつめた。そしてそれぞれに明確な答えが返ってきた。

神秘的な水面上のフラワー・シャンドリア



シャンドリアは神秘的な趣きを創出して、対象となる刺激を形成するプロセスに感動するランのテーブルにも、フラワー・シャンドリアもフラワー・シャンドリア「や花のフラワー・ポットで囲まれていて、楽しさや落ち着き、すなわち一時の幸福感をも、持ち合わせている。美の創出も感動の創出もビジネスにつながる。

松浦氏によれば、花が囲む環境は、自然の中にいる存在を創り出す。持続可能性(永続性ともいう)の視点でも

してくれるので、オープンスペースに沢山のひとと一緒にいても違和感がなく、共生共存の感情が生まれるという。その通り、霧囲気を体感した。ここでは、結婚式も行われるという、教会や式場の場合とは異なる状況であり、感慨深い式で、かつ想い出になるだろう。

▼富士花鳥園

「三島スカイウォーク」は、2015年12月のオープンで日が浅い。このフラワー・シャンドリアの元祖が、富士市の「富士花鳥園」として、仕上げたという。余人にはできない技術である。もはや、「花は花に非ず」と言える。

▼感動をつくる

便利で快適な暮らしを営むことが、私たち人間の本性かもしれない。が、その本性をさらに磨くことに、美や感動がある。美も感動も主観的なものではあるが、美は外的、感動は内的な意味合いではないだろうか。人間に感動を与えることは、文字通り活性化につながる。刺激に感動するメカニズムの研究によれば、それには二つある。対象となる刺激を形成するプロセスに感動する場合(ストーリー性がある場合)と、刺激の結末に感動する場合(ストーリー性がない場合)に分けられるという(東洋大学・戸梶亜紀彦教授。フラワー・シャンドリアは、時間を掛けて達成されたもので、プロセスと結末の感動のほか美をも、持ち合わせている。美の創出も感動の創出もビジネスにつながる。

▼花にして花に非ず

白居易の詩に『花非花』がある。詩の意味することは、他にあるのであるが、このシャンドリアの花は、もはや、花ではあるが、ふつうの花とは異なる。

- 花非花、霧非霧
- 夜半来、天明去
- 來如春夢幾多時、去似朝雲無覓處

連載・イベント